

3 環境情報の収集・発信

センターは、県民に環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、ホームページで様々な情報を公開している。ホームページでは、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報等を提供している。センターでは、ホームページを情報発信の重要なツールの一つとして捉え、より効果的に情報発信を行うための整備を行っている。

ホームページアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/fl6/>

[平成24年度アクセス件数 127,725件 前年度比 13.7%増]

また、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行した。

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) 新着情報

トップページに、県民向けとしてイベントや各種講座等について案内。

(2) 展示館と各種講座及び研究所からのお知らせ

募集、公開講座参加のお知らせ、展示館休館日、ニュースレター、ココが知りたい埼玉の環境、研究成果情報等掲載。

(3) センターの概要

総長あいさつ、組織概要、沿革、全景図(航空写真)を掲載。

(4) 利用案内

所在地、電話番号、休館日、入場料、交通、研修室の利用、講座情報、研究所公開等について掲載。

(5) 施設紹介

全景図(航空写真)の掲載ほか、展示館、環境情報プラザ、生態園を施設毎に紹介。

(6) 学習・情報

環境大学、県民実験教室、生態園体験教室などの講座情報ほか、出前講座、生態園だよりについて掲載。

(7) 研究所

試験研究の取組、国際貢献について掲載。また、併せて刊行物をPDFにより提供する「刊行物データベース」を掲載。

(8) 研究成果の情報(機関リポジトリ)

(9) 環境関連リンク(センター内)

社会科見学の案内、二酸化炭素濃度速報値、光化学スモッグによるアサガオ被害調査、生物多様性データベース等。

(10) 環境関連リンク(センター外)

光化学スモッグ注意報等発令状況(大気汚染常時監視システム)、埼玉県自然学習センターほか。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するため、ニュースレター(A4版、4ページ)を、平成24年度は4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードすることができる。

(1) 第15号(平成24年5月発行)

- ・平成23年度埼玉県環境科学国際センター講演会
- ・研究・事業紹介 「埼玉県内に生息する魚介類に対する環境中の紫外線吸収剤の生態リスク評価及びヒトの暴露量に関する研究」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(6) 光化学スモッグって植物にも悪影響を及ぼすの？
- ・環境学習 ・イベント情報

(2) 第16号(平成24年7月発行)

- ・行政支援活動の紹介 「利根川水系でのホルムアルデヒド水質事故を振り返って-予期せぬ事態への対応と教訓-」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(7) 廃棄物処理によって温室効果ガスはどの程度排出するの？
- ・環境学習 ・イベント情報

(3) 第17号(平成24年10月発行)

- ・第8回日韓環境シンポジウムを開催
- ・研究・事業紹介 「国際貢献事業 スリランカとの共同研究 ごみ埋立地の調査を開始」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(8) 埼玉県の川をもっときれいにするにはどうすれば良いの？
- ・環境学習 ・イベント情報

(4) 第18号(平成25年1月発行)

- ・第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)を開催
- ・ココが知りたい埼玉の環境(9) 温暖化対策にはどのようなものがありますか？
- ・環境学習 ・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「平成24年度環境科学国際センター講演会」を平成25年2月1日に埼玉会館(さいたま市浦和区)で開催した。「埼玉県の環境はどう変わったの!?～環境の変遷～」を統一テーマとして、立正大学の田村教授が基調講演を行うとともに、センター研究員による研究成果・事例の発表及び研究活動紹介のポスター展示と解説を行い、環境問題への理解を深める機会とした。センター講演会の参加者は228名であった。

(1) 基調講演

流域から環境をとらえる

— 荒川流域を例に —…………… 立正大学地球環境科学部環境システム学科 教授 田村俊和

「流域」はある1地点を通して地表の水が排水されることが可能な範囲を、その点にとつての流域といいます。流域が、水、水が運ぶ土砂、土に溶けたさまざまな物質などの移動・分布を空間的にコントロールしていることとなります。植物や動物にとつても、流域という空間が重要な意味をもっています。荒川は、上流から、峡谷、扇状地、自然堤防・後背低地・旧流路などが交錯する氾濫平野、更に三角州という、湿潤温帯の山地に発する河川が作る地形の典型的配列が見られます。中・下流部の一部に人工河道区間があつても、この自然の地形配列の規則性は乱されていません。自然環境を構成する諸要素は、流域の中で、空間的・時間的に姿を変えながら、つながっています。この環境のつながりを不用意に切断せずうまく生かして資源管理、省エネルギー、汚染軽減、防災などを同時に図っていくのが、真の環境保全ではないでしょうか。

(2) センターの研究成果・事例紹介

埼玉県における二酸化炭素濃度の推移

— WMO標準ガスを基準とした精密観測について —…………… 温暖化対策担当 武藤洋介

大気中の二酸化炭素は、人間活動に伴い排出されるガスとしては地球温暖化に対して最も影響の大きい温室効果ガスとされており、世界各国で大気中の二酸化炭素濃度の定点観測が継続的に実施されてきました。埼玉県では、人為的な汚染の影響を把握するため、都市部に位置する浦和観測所(さいたま市桜区)において二酸化炭素濃度の高精度な観測を1991年4月に開始しました。その後、山間部に位置する堂平山観測所(秩父郡東秩父村)と農村部に位置する騎西観測所(加須市)においても二酸化炭素濃度の観測を開始しました(浦和観測所は2002年3月終了)。本発表では2012年3月までの観測結果について解析を行ったので、埼玉県における濃度変化の特徴について報告しました。

県内河川における残留性有機フッ素化合物の汚染実態

— PFOS、PFOAと前駆物質について —…………… 化学物質担当 茂木 守

PFOS、PFOAは通常の環境中ではほとんど分解しない、極めて残留性の高い化学物質で、世界各国の河川水や海水、野生生物、または人の血液からも検出されています。これらの化学物質は、動物に対する発癌性、免疫系障害、生殖障害などが報告されていますが、毒性自体は比較的弱いため、現状では人への健康影響はほとんどないと考えられています。ただし、生体内への蓄積が懸念されるため、環境濃度レベルに関する情報収集に努める必要があります。本発表ではPFOS、PFOAなどの有機フッ素化合物による県内河川の汚染実態について報告しました。

地中熱利用システムのためのポテンシャル評価

— 地中熱エネルギーの活用について —…………… 土壌・地下水・地盤担当 濱元栄起

再生可能エネルギーのひとつである「地中熱エネルギー」の活用が期待されています。特に「地中熱利用システム」の一種である「地中熱ヒートポンプシステム」は冷暖房や給湯の用途に適した温度を得ることができるため、米国やEUでそれぞれ100万台以上が設置されており、広く普及しています。これに対して、日本では、500台程度にとどまっています。この原因のひとつとして、日本では適切な設計や施工に必要な地下環境についての情報整備が遅れていることがあげられます。本発表では埼玉県内の地下環境の情報整備などについて報告しました。

(3) センターの活動紹介

各担当がその活動概要を紹介するポスターを展示し、参加者に説明するとともに、質問に答えた。



基調講演



ポスター展示

3.4 環境情報の提供

(1) モニタリングデータの提供 (CO₂)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、堂平山(1992年度～)及び当センター(2000年度～)において、地球温暖化原因物質である大気中のCO₂の濃度を観測してきた。測定に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、国連世界気象観測機構(WMO)の観測網を通して世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開している。

(2) 埼玉県地質地盤資料集の刊行

県内のボーリング柱状図(計約4,700本)や地下温度データ及び地下水質データを取りまとめ、「埼玉県地質地盤資料集」を刊行した。地下温度データは県内平野部全域に分布する計23地点の地盤沈下対策用の地下水観測井において観測されたもので、再生可能エネルギー技術の一つとして注目されている地中熱利用システムの導入に役立つ情報である。また、地下水質データは県内約270箇所の各種の井戸を対象とした調査により得られたもので、地下水汚染対策を検討する際の基礎情報としての活用が期待される。なお、ボーリング柱状図(JACIC様式)については埼玉県地理環境情報WebGIS(<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/gis/>)を通じて一般公開も実施している。

(3) 環境情報の海外への発信

英語版ホームページに研究員紹介ページを開設し、当センターの研究員について海外に向けた情報発信を行った。また、研究テーマ一覧も公開している。

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して、記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

(19回)

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|--------|-------------------------------|---|
| 4月 7日 (土) | 埼玉新聞 | 大群が清流で乱舞 志木柳瀬川 マルタウグイ産卵 | 志木、富士見市の境界の柳瀬川で東京湾から遡上したマルタウグイの大群が浅瀬で産卵。県環境科学国際センター自然環境担当部長の金沢光さんは「ふ化した小魚たちは新河岸川、隅田川を経て東京湾へ下って3、4年後に遡上して産卵する。彼らは海の恵みです」、「30センチくらいの小さいのは初産でしょうね。あまり慣れていない。40、50センチのはベテラン」、「心置きなく産卵できるよう、そっとして、見守ってほしい。川に興味を持ってほしい」とコメント。 |
| 4月13日 (金) | 毎日新聞 | 水質浄化の成果 不老川にマルタウグイの群れ | 80年代に「日本一汚い川」と言われた県南部を流れる不老川でマルタウグイの群れが確認された。県環境科学国際センターの金沢光・自然環境担当部長は「コイに比べて体が細長く、体に赤い帯が見られるなどの特徴から、産卵のために遡上してきたマルタウグイに間違いない」、「新河岸川に比べて水温が高かった不老川に入ってきたのではないか。水質が良くなったことも大きな要因とみている」、「マルタウグイが来年も桜前線とともにのぼっていくことを楽しみにしたい」とコメント。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|--------|--|--|
| 5月 3日 (木) | 毎日新聞 | 記者日記: 発見伝えたい ／埼玉 | 取材相手から印象に残った言葉がいくつかある。「桜前線と同様、マルタ前線もあるんです」。4月13日の「不老川にマルタウグイの群れ」の記事の中で専門家の立場からコメントしていただいた金沢光さんの言葉に心が動いた。「季節感を川に求めてほしい」という金沢さんの願いを読者に伝えたい。ハッとしたり、うなづいたり、自分にとって何らかの発見がある記事を書くのが記者の醍醐味だ。 |
| 5月10日 (木) | 毎日新聞 | ドバト5羽死骸 体内から農薬 | 鶴ヶ島市の小学校でドバト5羽の死骸が見つかり、埼玉県環境科学国際センターで分析したところ、体内から有機リン系の殺虫剤「EPN」が検出された。 |
| 5月22日 (火) | 朝日新聞 | 利根川水系の6ヵ所で採 水 | 利根川水系のホルムアルデヒド問題で、県北部環境管理事務所は検査用の河川水を採取した。埼玉県環境科学国際センターには、各地から分析依頼が殺到しており、今回採取した水は民間分析機関に委託する。 |
| 5月23日 (水) | 読売新聞 | 排出源特定難しく 県、工場の検査を開始 ホルムアルデヒド検出 | 利根川水系で国の基準値を上回るホルムアルデヒドが検出された問題で、原因究明のため、埼玉県環境科学国際センターに加え、民間の検査機関にも調査を依頼した。 |
| 6月 8日 (金) | 埼玉新聞 | 利根川水系汚染 県が最終結果 法的責任問えず DOWA社に行政指導 | 利根川水系の浄水場で国の水質基準を超えるホルムアルデヒドが検出された問題で、県は原因調査の最終結果を発表した。埼玉県環境科学国際センターが廃液処理工程を再現実験した結果、ヘキサメチレンテトラミンは4割程度しか分解されず、窒素分は2割程度しか除去されなかった。 |
| 6月 9日 (土) | 埼玉新聞 | ナマズ コイ捕ったよ 藤田小児童 高校生と 河川調査 本庄 | 本庄市立藤田小学校と早稲田大学高等学院による河川調査が藤田小近くの小山川と元小山川で行われた。調査は、国交省清流ルネッサンスを受け、県が始めた「小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ事業」の1つ。県環境科学国際センターの魚の専門家、金沢光さんは「生息する魚を調べることで、きれいな川とそうでない川の違いを知ることができる。河川をどうしたらきれいにできるかを学んでもらっている。」と話した。 |
| 7月 7日 (土) | 日本経済新聞 | 環境に興味親子で深め る 埼玉の学習施設 映像・ クイズ充実 | 子供も大人も楽しみながら環境問題を学べる展示館では、映像を通じて理解できる「ガイヤビジョン」やクイズを楽しみながら自然科学などを学ぶことが出来る「メディアワークショップ」、さらに環境に優しい自動車の運転を学ぶシミュレーター「チャレンジエコドライブ」など趣向を凝らした展示物を楽しむことができる。また、ため池や雑木林、水田、小川などを備えた生態園が広がる。昭和30年代の里山をモデルにしており、調査研究や野外学習に利用することができる。公開講座やセミナーなども開催する。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|---------------|----------------------|---|--|
| 7月10日 (火) | 埼玉新聞 | 温室効果ガス市町村別 推計 県が初の試み | 県は二酸化炭素を主とする温室効果ガスの排出量を市町村別に推計した。初の試みで、直近の2009年度と1990、2000、2005の四つの年度の数値を算出。地域の温暖化実態を明らかにすることで、効率的な温暖化対策につなげたい考えだ。 |
| 9月28日 (金) | 埼玉新聞 | 希少魚の環境守れ 熊谷の元荒川 水質改 善へ水草除草 | 県と熊谷市の魚に選定されている希少魚のムサシトミヨの生息環境を改善しようと、ムサシトミヨ保全推進協議会は27日、熊谷市久下の元荒川で水草の刈り取りを行った。水草を除去することで川の流れを取り戻し、水質を改善させるのが目的。県環境科学国際センターの金沢光さんは「3年後に実施するムサシトミヨの生息調査までに1尾でも多くの魚を呼び戻すことができれば」と話していた。 |
| 11月14日 (水) | 埼玉新聞 | ムサシトミヨを展示 16日までくましん新本店 のオープン記念 | 世界で熊谷だけに生息が確認されている希少魚のムサシトミヨの生体展示が、熊谷市本町の熊谷商工信用組合本店ロビーで16日まで行われている。くましんの新本店が10月にオープンしたのに合わせ、地域貢献のために企画。県環境科学国際センターが飼育しているムサシトミヨ10匹を、水槽に入れて公開している。 |
| 1月 8日 (火) | 朝日新聞 「埼玉マリオ ン」 | 新春お楽しみ企画 「アニメ上映会」 | 環境学習事業の新春お楽しみ企画である「アニメ上映会」、「オリジナルしおり作り」13・14日(日・月祝)について、開催日時、回数、会場、連絡先、参加方法等を紹介したパネル12枚を30日まで展示している。 |
| 2月13日 (水) | 埼玉新聞 | サイ・テクこらむ 知と技 の発信 埼玉大学・理工学研究の 現場 途上国の廃棄物処分問 題 | 埼玉大学環境科学研究センターは開発途上国における廃棄物最終処分場の問題を解決するため、「SATREPS」の研究課題「スリランカ廃棄物処分場における汚染防止と地域特性を活かした修復技術の構築」に取り組んでいる。日本からは、埼玉県環境科学国際センター等も参加している。 |
| 2月15日 (金) | 毎日新聞 | ヒヨドリ不審死 10羽に農薬成分 | 熊谷市上中条でヒヨドリ15羽が死んでいるのが見つかり、埼玉県環境科学国際センターで10羽を調べたところ、メソミルが検出された。 |
| 2月27日 (水) | 埼玉新聞 | 市町村担当者らPM2.5学 ぶ | PM2.5に関する研修会開催結果、県の測定結果の公表に関する情報 |
| 3月 5日 (火) | 朝日新聞 「埼玉マリオ ン」 | 科学番組上映会 「地下鉄こども探検隊」 | 環境学習事業の企画として、無料上映会「地下鉄こども探検隊」について、開催日時、回数、会場、連絡先、参加方法等を紹介。 |
| 3月 6日 (水) | 毎日新聞 | ふじみ野などで野鳥59羽 不審死 | 県は、草加、さいたま、ふじみ野の3市で野鳥計59羽が死んでいるのが見つかったと発表した。埼玉県環境科学国際センターが各地の死骸の胃内容物を調べたところ、野菜の殺虫剤に使われる農薬「メソミル」が検出された。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内 容 |
|--------------|--------|-----------------------------|---|
| 3月16日 (土) | 埼玉新聞 | 入間川再生とアユ復活を NPO法人 日高でシンポ | 荒川流域の「入間川の再生と天然アユの復活を目指して」をテーマに意見交換する「第17回荒川流域再生シンポジウム・2013年みずかけ”サ”論」が日高市市立生涯学習センターで開催。県環境科学国際センターの金沢光さんが同ネットに取り組んでいる4年間の標識アユ遡上調査の結果等を報告。 |

(2)テレビ放映、ラジオ放送

(15回)

| 放送日 | 局名 | 番組名(タイトル) | 内 容 |
|-----------------------------|----------|---|---|
| 5月24日(木) | フジテレビ | めざましテレビ | 利根川水系の浄水場で水質基準を超過するホルムアルデヒドが検出された。当時、原因等は不明であったが、烏川流域に発生源が存在する可能性があり、また、原因物質としてヘキサメチレンテトラミンが考えられることを解説した。 |
| 6月9日(土) 再放送 6月14日(木) | NHK Eテレ | モリゾー・キッコロ 森へいこうよ！ 「川のタツノオトシゴ！ 奇跡の魚 ムサシミヨ を追え」 | 荒川の生き物探しから番組が始まる。3人でムサシミヨを探している中で環境科学国際センター自然環境担当部長金澤光が出演し、ムサシミヨの生息地である元荒川源流に案内する。元荒川では川に4人で入り、ムサシミヨを探す。探したムサシミヨについて金澤が生態や現在の生息環境などを説明する。ウド鈴木さん、入来茉里さん、佐々木洋さんが出演。 |
| 6月24日(日) 再放送 7月1日(日) | BSフジ | につぼんの水の博物館 | ムサシミヨの生息地及び水源、繁殖池等を撮影した。 |
| 7月17日(火) | FM NACK5 | 「モーニングスクウェア」 | 8月25日から開講される「彩の国環境大学」の受講生募集のお知らせ。 募集内容、講義期間、対象、申込み方法、問合せ等を紹介。 |
| 9月29日(土) 再放送 10月4日(木) | NHK Eテレ | モリゾー・キッコロ 森へいこうよ！ ～めざせ！ゴールドナ チュラリスト 森を愛す るモリンピック～ | 6月9日放映の再編集バージョン 出演：ウド鈴木さん、入来茉里さん、佐々木洋さん 環境科学国際センター自然環境担当部長金澤光が出演。 |
| 1月30日(水) | FM NACK5 | 「モーニングスクウェア」 | 2月1日(金)に埼玉会館小ホールで開催される「環境科学国際センター講演会」の参加者募集のお知らせ |
| 2月8日(金) | 日本テレビ | ニュースエブリ | 中国からの越境大気汚染に関連して、PM2.5の研究及びそれに使用する採取、分析装置などを紹介した。また、PM2.5の調査で得られた実際のサンプルを時系列に並べて紹介し、濃度の状況を説明した。 |

| 放送日 | 局名 | 番組名(タイトル) | 内 容 |
|----------|----------|--------------------|---|
| 2月 9日(土) | 日本テレビ | ズームイン!!サタデー | 中国からの越境大気汚染に関連して、PM2.5の研究及びそれに使用する採取、分析装置などを紹介した。また、PM2.5の調査で得られた実際のサンプルを時系列に並べて紹介し、濃度の状況を説明した。 |
| 2月11日(月) | フジテレビ | とくダネ! | 中国からの越境大気汚染に関連して、PM2.5の研究及びそれに使用する採取、分析装置などを紹介した。また、PM2.5の調査で得られた実際のサンプルを時系列に並べて紹介し、濃度の状況や高濃度の出現頻度について説明した。 |
| 2月19日(火) | TBSテレビ | Nスタ | 実際に使用しているPM2.5採取装置と分析について説明し、共同研究で実施している中国の状況や加須地域のPM2.5濃度の状況について説明した。また、越境大気汚染の指標となる成分についても言及した。 |
| 2月20日(水) | 東海テレビ | スーパーニュース | 環境科学国際センターのホームページに載せているPM2.5の写真を提供した。 |
| 2月27日(水) | NHK総合テレビ | おはよう日本 | 2月26日に開催された微小粒子状物質(PM2.5)に関する研修会の様子と、環境科学国際センターの研究者である講演者のインタビューが放映された。 |
| 2月28日(木) | テレビ朝日 | ワイド!スクランブル | 環境省PM2.5専門家会合について、そこで出された外出自粛の意図、PM2.5の危険性、PM2.5と黄砂等が一緒になった場合の影響、個人でできる対応策などについて解説した。 |
| 3月 1日(金) | テレビ朝日 | やじうまテレビ! | 黄砂はどのように飛んでくるか、花粉と黄砂は一緒に飛んでくるのか、それらとPM2.5にはどんな影響があるか、などについて解説した。 |
| 3月 2日(土) | TBSテレビ | みのもんたのサタデー ずばっと | 環境省PM2.5専門家会合で決まった注意喚起指針の決め方、注意喚起の方法、PM2.5の個人でできる対策、などについて解説した。 |